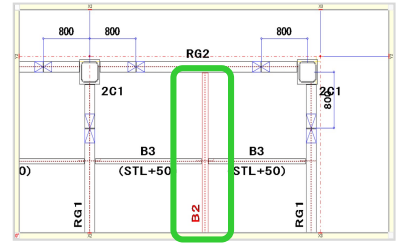# 梁などの部材が赤色で表示されてしまった！
接続先情報変更で修正できます。

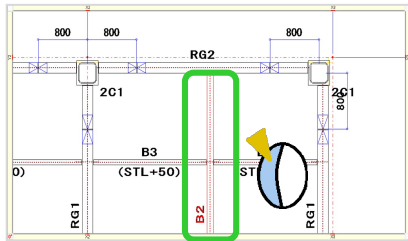REAL4 で入力したデータは全て入力順に自動的に ID が付与されており、
梁などの部材の接続先は部材名ではなく ID で認識しています。
例えば RG2 を削除後、再度同じ位置に RG2 を配置しても後から配置した RG2 は
先に配置されていた RG2 と ID が異なります。
そのため B2 は接続先の ID の梁がないためエラー色の赤色で表示されたままです。
エラーになっている B2 の接続先の部材の ID や、その部材に割り当てられた ID は 【照会】で確認できます。

【照会】をクリックし、赤くなった B2 をクリックすると、B2 の接続先の情報が入力シートの【接続情報】で
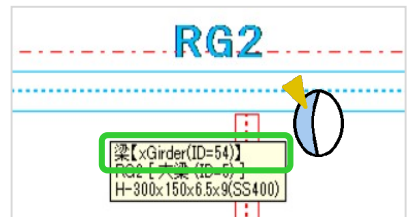確認できます。今回は B2 の右側の接続情報は削除前の RG2 になっているため、梁［ID=41］になっています。

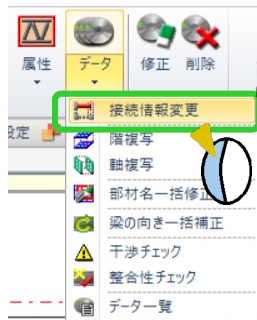| 右側	
継手距離	0
継手（右）	（BJ20)マスター参照
すきま（右）	（10)マスター参照
ハンチWEB基準	1－（マスター)自動決定
垂直ハンチ合わせ	1－自動
接続情報	梁［ID = 41］

また、部材自体の ID を確認したい場合は【照会】をクリックした状態で部材に
マウスを合わせると画面上に ID が表示されます。
RG2 にマウスを合わせると梁［ID=54］と表示されます。
そのため B2 の右側の接続情報を梁［ID=54］に変更すればエラーが修正されます。
【データ】－【接続情報変更】をクリックし B2 の接続情報を変更します。

接続情報変更の手順は入力シートの【手順指定】で変更できます。
要素⇒接続部材は B2（子梁)⇒RG2（親梁)の順で選択します。
接続部材⇒要素は RG2（親梁)⇒B2（子梁)の順で選択します。
大梁についている小梁が複数赤くなっている場合は、
接続部材⇒要素を選択するとクリックする回数が少なく修正できます。

要素⇒接続部材にしている場合、①赤くなっている B2 の上側（右端部）をクリックします。
②下のほうからグレーの線が表示されマウスについてくるため接続先の RG2 をクリックします。
接続先が新しく入力された RG2 の ID に変更され、B2 の部材色が白色に戻り RG2 にガセットが取り付きます。